

沼津高専だより

第123号

令和5年7月7日発行

独立行政法人国立高等専門学校機構

沼津工業高等専門学校

〒410-8501 沼津市大岡 3600

TEL 055-921-2700 URL <https://www.numazu-ct.ac.jp/>



入学式



原付安全運転講習会



新入生オリエンテーション合宿研修



寮祭

目次

☆新年度にあたって（年度方針等）

沼津高専を科学と技術の知の拠点に	…………… 学校長	岡田 哲 男	…… 3
大胆かつ慎重に挑戦を	…………… 副校長（総務主事）	稲 津 晃 司	…… 3
進化する教育・学修環境	…………… 校長補佐（教務主事）	芹 澤 弘 秀	…… 4
失敗を恐れずに	…………… 校長補佐（学生主事）	佐 藤 誠	…… 4
取り戻すこと、取り入れること	…………… 校長補佐（寮務主事）	永 禮 哲 生	…… 5
私たちの活動を紹介します	…………… 校長補佐（研究主事）	竹 口 昌 之	…… 5
令和5年度のはじめにあたり	…………… 校長補佐（専攻科長）	大 庭 勝 久	…… 6
学生自身が持つ力	…………… 学生生活支援室長	小 林 美 学	…… 6
デジタルかアナログか	…………… 機械工学科長	新 富 雅 仁	…… 7
電気電子工学科での基幹技術の学びと3つの強み	…………… 電気電子工学科長	大 津 孝 佳	…… 7
心身ともに成長するこの5年間で大切に	…………… 電子制御工学科長	鈴 木 静 男	…… 8
制御情報工学科長からのご挨拶	…………… 制御情報工学科長	鈴 木 康 人	…… 8
DISCE LIBENS 楽しんで学べ	…………… 物質工学科長	青 山 陽 子	…… 9
「人がらのよい優秀な技術者」づくりを目指して	…………… 教養科長	小 林 美 恵 子	…… 9

☆人事異動について

令和5年度 人事異動	……………	10
令和5年度 校務分掌	……………	11
令和5年度 クラブ・同好会顧問教員	……………	12

☆着任挨拶

初めての静岡、初めての高専	…………… 機械工学科	横 井 敦 史	…… 13
沼津高専での数学教育について	…………… 教養科	米 田 慧 司	…… 13
素数の輝き	…………… 教養科	長 谷 川 豊 輝	…… 14
英語を身につけること	…………… 教養科	萩 原 康 一 郎	…… 14

☆新入生から（入学にあたり）

初心を大切に	…………… 機械工学科1年	紅 林 祐 聖	…… 15
自由って難しいな。	…………… 制御情報工学科1年	門 柊 太	…… 15
技術者への一歩	…………… 物質工学科1年	寺 田 侑 太 郎	…… 15

☆留学生から

留学生の沼津高専に対する印象	…………… 電気電子工学科3年	ロビー ロビンソン ネルソン	…… 16
沼津高専での新しい旅	…………… 制御情報工学科3年	ジョジ スタインズ ガオン アナク デニス	…… 16

☆寮生会活動について

今までとこれからの寮生活	…………… 寮長 物質工学科4年	清 水 太 陽	…… 17
--------------	------------------	---------	-------

☆教育後援会から

より充実した「後方支援」のために	…………… 教育後援会会長	山 口 直 子	…… 17
------------------	---------------	---------	-------

☆三つのポリシー

☆お知らせ

令和5年度沼津高専一日体験入学のお知らせ	……………	22
令和5年度（8月～3月）行事予定表	……………	23

新年度にあたって (年度方針等)



沼津高専を科学と技術 の知の拠点に

学 校 長
岡 田 哲 男

昨年4月に沼津高専の校長になるまで主に理学畑で過ごしてきました。ご存じのように、沼津高専は工学系高等教育機関です。科学の真理を追究するのが理学、科学や技術を社会で利活用できるようにするのが工学です。理学と工学は、本質部分において異なりますが、「科学と技術」を共通要素として密接に繋がっています。たとえば、科学の追究には新たな技術が必要です。その技術が時には新しい工学的応用を生み出します。一方、工学研究の過程で科学の新しい側面が見えることがあります。また、独創的な工学研究や開発を行うためには科学の本質を理解することが必要です。高専で多くの数学や自然科学の授業が開講されているのはこの理由によります。

理学と工学の共通要素である「科学と技術」は通常「科学技術」と表現されます。科学技術基本法の創設を主導した尾身幸次氏は、「科学技術」とは「科学及び技術」の総体を意味すると述べていますが、法律施行から30年近くを経て、この語は「科学に裏打ちされた技術」と解

釈されがちです。私は、このような語感をぬぐうために、既述のように「科学と技術」、あるいは「科学・技術」と表記すべきと思っています。

さて、日本は「科学技術立国」を標榜し、「科学と技術」の重要性が広く認識されてきました。それにもかかわらず政治や行政は有効な投資を渋り、無策を続けてきました。その結果、多くの指標で日本の科学・技術研究における世界的地位は下がり続けています。また、初等中等教育では生徒の数学(算数)や理科への興味を十分に引き出せないまま今日に至りました。当然の帰結として、“コスパの悪い”理工系に進学する学生は少数派です。

沼津高専は、この状況を打破するために一役買えるのではないのでしょうか。これまでも地域の小中学校等で出前授業を行ってきました。また、学生の皆さんが近隣の学校で学習の手伝いをしていたと聞いています。しかし、多くの取り組みがコロナ禍でしぼんでしまいました。これらを復活させ、さらにもう一步踏み込んで科学や技術のことは沼津高専に任せておけという雰囲気を作り、地域からの信頼を得たいと思っています。AIやインターネットなどバーチャル空間ではできない、高専が得意なリアル空間での取り組みを通じて、地域の科学・技術熱を高めませんか。沼津高専そして理工系全体のプレゼンスを高めることにつながるはずです。ご理解とご協力をお願いします。



大胆かつ慎重に挑戦を

副校長 (総務主事)
稲 津 晃 司

ご承知のとおり、5月の連休明けに新型コロナウイルス感染症の感染症法上の扱いが変更されました。これを契機に、3年前から続いていた種々の制限はかなり緩和され、学生みなさんが実質的な制約なく学修に取り組むことができるようになってきています。もちろん、新型コロナウイルス感染症は、まだ予防法も治療法も確立されていない疾患ですので、場面に応じたマスク着用、手指の消毒、密の回避といった基本的な感染拡大防止策の徹底を継続することがまだ必要です。窮屈さは残りますが、新しい日常が確立されつつあります。不安定な国際情勢や新たな感染症の拡大に関連する懸念は残りますが、これもあわせて、のちに語り続けられるほど大きな社会での事象と変革を目の当たりにしていることを「当たり前」を見直したり、まったく新しい挑戦をしたりする契機として前向きにとらえるのが良いと考えます。学生みなさんや教職員みなさまが、以前を取り戻すと

いうより、これからを創るという心持ちで積極的に幅広く活動することを切に期待します。

活動を通して確かな成果を手にしていくためには、手当たり次第に猪突猛進したり、自分の経験や考えに固執したり、あるいは他人から聞いたことを盲信したりするのは上手くありません。拠り所や見通しをもつことが必要です。本校が学生みなさんにより良い教育を提供するための活動や、地域の創生に貢献するための活動でもこれは同じです。このため、本校は昨年度に教学マネジメントといわれる活動のための組織として評価・IR室を設置しました。我が国の高等教育機関全体に要請されている「学修者本位の教育」の実現に向けたものでもあります。データに基づいて拠り所と見通しを提供することで、本校が時機を得て期待に応える、より良い教育と地域貢献を行っていくことを企図しています。とはいえ、まだまだ試行活動の段階で成果を上げるまでにはもう少し時間がかかりそうです。本校が、学生みなさんが見通しの悪い社会にあっても技術者として活躍するための学びと成長を支えること、地域の期待に応え、さらに大きな期待をよせてもらえるようになることを実現していくよう、前に進めてまいります。必要なデータを取るために種々の調査や情報提供をお願いすることが増えるとかと思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。



進化する教育・ 学修環境

校長補佐（教務主事）
芹澤 弘 秀

今年度も教務主事を務めます芹澤です。よろしくお願いいたします。新型コロナウイルス感染拡大により暗鬱の状態が3年以上も続いていましたが、ようやく出口を実感できるほど感染者数が激減し世の中全体が輝きを取り戻したように思います。ただ、終息にはまだ時間がかかるため、安全に授業を実施するためには必要に応じたマスク着用や換気・手洗い等の対策が重要となります。引き続き感染防止対策へのご協力をお願いします。

さて、様々な活動が以前の状態に戻りつつありますが、本校の教育・学修環境はコロナ前より大きく進化します。図書館と情報センターの改修工事のため、学生の皆さんには授業や放課後での学習利用、課外活動等で大変ご不便をおかけしましたが、工事も無事終わり4月からは「総合メディアセンター」と名称を改め大変使い勝手の良い施設に生まれ変わりました。特に、学修スペースは大変充実し「Fuji Cafe」は機能的に整備されてこれまで以上に気軽に立ち寄れる施設となりました。集中して勉強したい人には2階の無音学修スペースがお勧めです。自学自習の場として積極的に活用してください。

また、昨年度末の文科省大学改革推進等補助金「高等専門学校スタートアップ教育環境整備事業」の採択に伴

い、起業マインドを醸成する様々な取組（ソフトのみならずハードの整備も）が今年度から本格的に始まります。自由な発想でアイデアを話し合い、製品を開発するための起業家工房を現在整備中で、学生が自由に利用できる3Dプリンタ等の機器やITツール（IT関連教材やAI用ワークステーション含む）など様々な設備等が導入されます。さらに、金融教育やOB起業家との座談会、授業の成果をコンテストに結びつける取組も計画されています。4月中旬には、気軽にコーディネータに相談できる起業相談室も開設され、既に1年生から複数問い合わせがあったと聞いています。早い時期からの活動（これこそが高専に入学したメリット!）は今後の人生に大いに役立つと思いますので、興味のある人は積極的に利用してください。

さらに、他学科科目の受講は大学では一般的ですが、本校でも4、5年生に限り他学科の科目を通算で4単位まで履修することが可能となりました（低学年科目も対象）。ただし、ハードルは高く、担当教員の許可や教室の収容人数の問題がクリアされることなどが必要となります。所属学科の科目だけでは卒業後の就職や進学に対応できない場合など、他分野の学修が必要な場合にこの制度を活用してください。その他、今年度中に教務システムの更新が予定されていて、来年度からは学生がWebで成績を閲覧して単位取得状況などを把握できるようになるため、計画的な科目の履修に役立つと期待されます。

このように、本校の教育・学修環境は進化し続け、皆さんの学修をより良い方法でサポートしていきます。整備された環境を是非とも有効に活用してほしいと願っています。



失敗を恐れずに

校長補佐（学生主事）
佐藤 誠

昨年度に引き続き学生主事を務める佐藤誠です。よろしくお願いいたします。コロナの感染も少し落ち着き、政府の対応もインフルエンザ同様5類へと変更されました。昨年度の学生指導方針として掲げた、可能な限り制約のない学生生活の実現については、学生たちの協力によりかなり実現できたのではないかと感じています。今年度はコロナ以前の状態をベースに、学生たちの積極的な活動を一層促していきたいと考えています。また、昨年度からの学内美化をはじめとした、モラルに対する意識の向上も継続していきたいと考えております。

ところで学生の皆さんは「失敗」をどのように考えているでしょうか？コロナ下で静かに生活することが当たり前になり、何かを積極的にいきなり失敗するよりは、無難に何もしない方が良く感じている学生も多いかと思います。私は「取り返しのつかない失敗」は問題ですが、

そうでなければ多くの「失敗」を経験した方が皆さんにとっていろいろ有意義ではないかと考えています。私の専門は体操競技ですが、体操競技では失敗は重要な意味をもっています。たとえば鉄棒の上で宙返りをして再び鉄棒を持つ技を練習しようとする時、まず行うことは安全に落ちることを覚えることです。当然ですが、安全な落ち方ができなければ安心して技を練習することはできません。また、私の恩師はオリンピック2大会連続で金メダルを獲得していますが、試合直前のアップではあえて失敗の練習をしていました。恩師曰く、自分でこうしたら失敗するというを確認しておき、それをしなければ試合では成功しかないということだそうです。

学生時代のチャレンジは失敗の方が多くかもしれませんが、その失敗は必ず次に生かすことができると思います。しかしそのためには、まずはチャレンジしなければなりません。是非学生時代に多くのチャレンジをしてほしいと思います。学生主事の立場からは学生のチャレンジしやすい環境作りをしていきたいと考えています。学生たちの新しいチャレンジに向けて保護者の皆様のご支援とご協力を願いたいと考えていますので、どうぞよろしくお願いいたします。



取り戻すこと、取り入れること

校長補佐（寮務主事）
永 禮 哲 生

昨年度より引き続き寮務主事を務める機械工学科の永禮です。よろしくお願いいたします。昨年度は7月に寮内での感染者が急増し、1週間緊急閉寮をする事態となりました。寮生および保護者の皆様には大変なご苦労をおかけしましたが、開寮後は寮内での感染を疑われる感染者の発生は少なく無事2月の閉寮を迎えることが出来ました。ご存じの通り、新型コロナウイルスは5月より5類感染症となりました。この変更に伴い、4月に発表された文科省の『学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル』の「寮および寄宿舎における感染症対策について」において学寮に関する感染対策の指針が示されました。学生寮の運営に関して従来の対策と大きな変更はありませんでしたが、5類への変更を踏まえ、マスクの適宜着用や寮内の行事について見直しを行い、寮生会と協力し寮生の活動が活性化するように努めてまいります。本年度は優峰寮の改修に伴い397名を定員として運用いたします。改築後の優峰寮はシャワー室、ラーニングスペース、ハラルキッチン、多目的トイレを備えたバリアフリーの機能を有する国際寮として令和6年3月に竣工予定です。

沼津高専の学生寮は寮生会が管理、運営する自治寮であり、寮の主体となるのは寮長を筆頭とした寮生会です。本年度は寮長に物質工学科4年の清水太陽さん、副寮長に制御情報工学科4年の大塚健太郎さんと大村喜助さん

が就任しました。就任後間もない時期ではありますが、他の役員と連携し精力的に活動しています。寮生会をサポートする寮務関係教職員は、寮監に川口先生、寮務主事補に教養科の佐藤先生、黒澤先生、制御情報工学科の大久保先生、物質工学科の古川先生、寮務委員に教養科の成田先生、電気電子工学科の大澤先生、電子制御工学科の牛丸先生が就任しました。さらに、沼津高専では今年度4名の新任教員を迎えましたが、この先生方にも寮務委員としてご活躍頂くこととなりました。新任教員は教養科の萩原先生、長谷川先生、米田先生と機械工学科の横井先生です。寮生の生活全般を支える寮務係には昨年に引き続き志田寮務係長が就任しております。

また、4月より新しい試みとして、寮生の保護者の皆様にメールアドレスを登録していただき、従来女子寮生のみに行っていた週末の外泊情報の連絡をすべての保護者の方に行うように致しました。また、このシステムを使用して寮の行事案内や事務連絡等を行っていく予定です。このシステムの活用し、5月14日(日)に開催した漆峰祭（寮祭）のお知らせをしました。寮祭当日はあいにくの天候でありましたが、本年度は4年ぶりに保護者・ご家族の参加制限なく参加いただくことが出来ました。寮生、教職員の予想を上回る300名を超える保護者・ご家族の来場があり、模擬店では雨の中、長い列ができご不便もおかけいたしましたが、事故もなく寮祭を無事に終えることが出来ました。ご来場いただいた皆様に御礼申し上げます。

本年度は、コロナ以前の学寮の活動に戻すとともに、コロナ禍で利用が促進されたIT技術の活用を進めて寮生の生活改善、保護者の皆様への迅速かつ密な情報提供が少しでも出来るよう運営していく所存です。今後とも引き続きご支援とご理解を賜りたく願います。



私たちの活動を紹介します

校長補佐（研究主事）
竹 口 昌 之

本年度より研究主事を務める竹口昌之です。研究主事は令和3年度に設置された新しい役職です。本年度は学内組織の見直しに伴い、研究主事が行う校務内容が広がりました。学生の皆さんや保護者の皆様と直接関係する校務内容でないため、この場をかりて私たちの取組みを紹介させていただきます。

私たちの活動を行う組織は研究・地域連携委員会となります。メンバーは住吉光介副主事、大沼巧主事補、横山直幸主事補、前田篤志委員、山之内亘委員、筒井正文産学官連携コーディネーターと長谷川武史総務課長となります。このメンバーに加え、蓮實文彦客員教授（地域

連携・基金担当）、大内一徳総務課課長補佐、小久保武研究支援係長をはじめとする研究支援係スタッフ（加山紗衣さん、八木正行さん、大河由広さん、高梨なつみさん）が私たちの活動を力強く後押ししております。私たちは、研究活動、研究支援活動及び地域連携活動を推進し、これらをもって本校の教育研究の充実発展に資することを目的に、2つの部会（研究部会と地域連携部会）を設置しております。

「研究部会」では教職員の研究活動推進を目的とした研究費申請者へのサポートを行っております。また、本校が申請を計画しております次世代科学技術チャレンジプログラム（小・中学生への理科教育増進プログラム）の申請検討を行っております。研究部会は住吉副主事を中心に進めております。

「地域連携部会」では地域社会との連携強化を目指しております。具体的には、本校と企業との交流の場である地域創生交流会の運営、地域社会で発生した技術的問題の解決にお手伝いする科学技術相談の推進、地域創生テ

クノセンターに入居した企業がインターンシップ等を通じたキャリア教育や社会実装教育を行う未来創造ラボトリーの活動推進を行っております。地域連携部会は大沼主事補を中心に進めております。

また、研究主事の所掌には公開講座運営、知的財産部会、研究関連委員会（遺伝子組換え実験安全、動物実験、研究報告、ヒトを対象とする研究倫理審査）と特別課程運営室があります。特別課程「富士山麓医用機器開発エ

ンジン養成プログラム」は静岡県とともに進める中小企業を対象とした医用機器開発に係る中核人材を養成する事業です。本事業は横山主事補が室長として運営しております。

私たちの活動は多岐に渡ります。関係する皆様のご理解とご支援を頂けますよう力を尽くして参ります。何卒よろしくお願い致します。



令和5年度のはじめに あたり

校長補佐（専攻科長）
大庭 勝久

今年度専攻科長を務めます大庭です。今年度の専攻科は、環境エネルギー工学コース長の山崎悟史准教授、新機能材料工学コース長の金顯凡准教授、医療福祉機器開発工学コース長の山之内亘准教授、専攻科運営委員の芳野恭士教授、小谷進准教授とともに6名体制で運営します。どうぞよろしくお願い致します。

専攻科生については、1年生が34名（環境エネルギー工学コース17名、新機能材料工学コース11名、医療福祉機器開発工学コース6名）、2年生が30名（環境エネルギー工学コース10名、新機能材料工学コース10名、医療福祉機器開発工学コース10名）で過去最多となる計64名が在籍しています。昨年度に実施されたJABEE継続審査において、本校専攻科における3コースの分野は、国立高専機構が推進する「Society 5.0型未来技術人材」育成事業（介護・医工、エネルギー、マテリアル、農水、防災・減災）に合致していることが評価されました。社会の要請に応えるカリキュラムが充実している点も入学者数の増加につながっていると考えています。本校専攻科

の3コースは、本科のすべての学科から入学可能です。それぞれの出身学科の専門領域を基盤に、多角的な視点を養うことで工学技術の進展に貢献できる人材として成長することを期待しています。専攻科生の学修環境の改善として、専攻科棟の3つの教室にPCと無線接続が可能な大型ディスプレイを導入しました。これまでは、授業でプロジェクターを用いると、投影スクリーンによりホワイトボードの全面を使用できなくなることを改善するものです。今後も学生のニーズに耳を傾け学修環境の改善を継続していきます。

専攻科生の進路については、昨年度の修了者30名に対して、就職が19名、進学が10名、その他が1名となっています。現2年生は、就職希望が16名、大学院への進学希望が14名です。この原稿の執筆時において、就職希望のうち13名が希望する企業より内々定を頂いています。

また、昨年度は専攻科自治会の活動の一環として、高専高度化推進経費により本校にて実施された「メディアスタジオをハブとした学生支援活動の強化」事業に参画しました。活動の第一段階として、数学と物理の基礎分野について例題を取り上げながら解法をスライド資料化し、ピアサポート用の低学年生向け学習支援教材を作成しました。今後もその時々に応じた形態で活動を支援したいと思います。

今後ともご理解とご支援のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。



学生自身が持つ力

学生生活支援室長
小林 美学

桜咲く4月は新しい生活がスタートする月です。新しく高専生活や寮生活を始める新入生はもちろんのことですが、教室が新しくなったり、専門科目が増えたり、進路に関する面接が始まったり、卒業研究が始まったり、下宿生活を始めたりと、学生によってその内容は様々ですが、それぞれの学生がいずれも新しい環境に身を置いて新年度をスタートさせます。

新しい環境は新たな発見や視点をもたらしてくれたり、

気持ちを奮い起こしてくれたりもしますが、緊張したり、迷いが生じたりすることもあります。このこと自体は誰にでもある正常な反応ですが、緊張や迷いが続くとなれば、疲れやすくなります。

今年度も何人かの学生が学生生活支援室を訪ねてくれ、保健室で話をしたり、カウンセラーに相談したりしながら新しい生活になじんでいきました。もちろんこれは新年度に限ったことではなく、年間を通じてさまざまな学生が困りごとについて相談に来てくれます。

相談に来てくれた学生達を見て思うのは、学生自身が持っている力の存在です。話をしている中で、自分自身の何かに気付いたような表情をふと見せることや、発している言葉によりその学生らしさを感じることがあり、そのような時は不思議と良い方向にものごとが進むことが多いように感じます。きっとそれは、気付いていなかった

た自分の力や答えに、試行錯誤の上、学生自身が巡り会えた瞬間なのかもしれません。

もちろん実際にはなかなか簡単にはものごとが進まないことも多く、悶々とする日々の方が多いような気がします。それでも学生の中にあるまだ巡り会えていない力を、学生と一緒に探して行きたいと思っています。

さて、平成16年に誕生した学生生活支援室も今年度で19年目を迎えました。はじめは教職員とスクールカウ

ンセラーだけのメンバーで尚友会館2階を活動の場にしていましたが、現在は活動の場を共通棟1階の学生支援ゾーンに移し、精神科医、ソーシャルスクールワーカー、学生支援コーディネータも加わり、様々な立場から学生を見ることができるようになりました。学生だけではなく、保護者の方からの学生に関する相談もお待ちしています。保護者のみなさまにおかれましても、どうぞ学生生活支援室をご利用ください。



デジタルかアナログか

機械工学科長

新 富 雅 仁

機械工学科の学科長を務めております新富です。本年度もどうぞよろしくお願い申し上げます。

4月には機械工学科に40名の新生を迎え入れることができ、大変うれしく思っています。入学式も大きな制限を設けずに実施でき、また、いわゆる「御殿場研修」も再開されて新型コロナ前の学校生活を取り戻しつつあります。新生のみなさんは、中学校3年間の生活ではいろいろな制限が設けられていたかと思いますが、高専では学校生活を大いに楽しんでください。

さて、3年前に実施していたオンライン授業では、プレゼンテーションソフトを使って説明をする必要があり、大変苦勞をしながらスライドを準備した記憶があります(徹夜をして準備したことも……)。その後対面での授業が再開されましたが、準備したスライドを活かさない手

はないとの考えで、私の授業では板書の量が極端に少なくなりました。一方でわかりやすい授業を行うには、やはり黒板を効果的に使った方が良いのではないかと改めて思い直し、本年度からは板書の量をまた増やし始めています。ぜひ多くの学生に学期末の授業アンケートに回答してもらい、効果を確かめさせてください。ところで、数年前からDX(デジタルトランスフォーメーション)という言葉がよく使われるようになってきましたが、最近ではAX(アナログトランスフォーメーション)という考え方もあるようです。もちろんいずれも目標とするところはより良い世の中の実現ですから、対立することはありませんが、いろいろな考え方があっておもしろいなぁと思っています。

最後になりましたが、本年度機械工学科は横井敦史先生を新たに迎えることができました。横井先生には金属材料学をはじめとする材料系の科目を担当して頂きます。本年度は、昨年度より1名減の9名の教員での学科運営になりますが、新たな技術はもちろん、これまで機械工学科として培ってきたことを最大限に活かし、より良い機械工学科を目指したいと思います。ご理解とご支援のほどをどうぞよろしくお願い申し上げます。



電気電子工学科での基幹技術の学びと3つの強み

電気電子工学科長

大 津 孝 佳

電気電子工学科の学科長の津孝佳です。電気電子工学科は教員10名、技術職員1名、学生200名からなる学科です。1・2年生副担任小村元憲教員、3年生担任高矢昌紀教員、4年生担任山之内亘教員、5年生担任高野明夫教員です。更に、学生委員会野毛悟教員、情報セキュリティ推進委員会嶋直樹教員、総合安全管理室西村賢治教員、寮務委員会大澤友克教員、広報室望月礼二教員、教育研究支援原田龍一職員の全員が一丸となって、Society 5.0を担う未来産業人材育成を目指します。また、就職指導教員を小村元憲教員と津孝佳教員の2名体制とし、企業と学生に寄り添った就職指導を実施しています。

学生達が担う未来社会では、電気自動車の自動運転交

通システム、太陽光発電などを含む次世代電力供給システム、ドローンを始めとする運送システムなど、電力と通信のスキルが求められます。電気電子工学科は、その基礎となる電気磁気学・電気電子回路から電気電子材料、電力工学などの知識とスキル、更に、通信やプログラミングなどの制御技術を融合させ、未来の社会システムを担う学科です。特に、電気自動車の高電圧化と自動運転技術、ビル設備の空調・エレベータの遠隔制御やスマート保全など、社会全体の高電圧化と情報化が進み、電気電子工学科への期待が高まっています。本学科は第2種電気主任技術者認定学科であり、多くの企業からの求人があります。また、約半分の学生は大学や専攻科に進学しています。

その為、基礎学力のみならず、専門技術力の向上を目的とし、3年生の「社会と技術」ではTRIZ発想法・ロボット製作・回路シミュレーションを学ぶ授業、4年生の「PBL型授業」では半導体プロセス、電子回路設計、IoTプログラミング、サイバーセキュリティなど、電気のをすべてを学べる基幹学科としての実験実習課題を行って

います。

2023年度も電気電子工学科の3つの強みを活かして行きます。

1つめは、普及型教育の実践として、基礎学力の充実を目指した「Eスタ」です。上級生が企画・立案・実施し、下級生へ教えて学ぶ中での成長もこのプロジェクトの良さです。

2つめは、強化型教育の実践として、3年生「社会と技術」、4年生「PBL」、5年生「卒業研究」と繋げ、各教員の専門技術教育、情報セキュリティー教育、プログ

ラミング教育、知的財産教育、高度化・個性化を实践する共同教育などにより、Society5.0社会に必要な社会システムを担う人材育成を目指します。

3つめは、地域との連携教育です。富士山や駿河湾、自動車産業など地域特性を活かし、出前授業やKV-BIKE（電池自転車）・環境エネルギー教育、バイオメテックスロボットなど、地域の幼・小・中学校との連携を行っています。

2023年度も宜しくお願い致します。



心身ともに成長する この5年間に大切に

電子制御工学科長
鈴木 静 男

昨年度に引き続き学科長を拝命しました。どうぞよろしくお願いいたします。例年よりも早く新緑の輝く季節となりました。沼津高専キャンパスは新入生を迎え活気に満ちています。この紙面をお借りして令和5年度の本学科の組織や教育等についてお伝えします。

1年担任は設楽恭平准教授、2年担任は太田匡洋助教、1、2年副担任は青木悠祐准教授、3年担任は香川真人助教、4年担任は鄭萬溶教授、5年担任は牛丸真司教授です。進学担当は5年担任が行い、就職担当は川上誠教授です。本学科の中心的科目・電子機械設計製作は青木准教授が担当します。教員10名が協力し、学生の活動と生活を支えます。

高専教育において、座学・実験・実習は重要な役割を

担っています。座学では理論的な知識や概念を学び、実験・実習ではその理論的な知識や概念を具体的な現象や事象に適用し、装置や材料を扱い技術的なスキルを磨き、理解を深めます。特に電子制御工学科では、電子機械設計製作を中心としたロボット教育に力を入れています。これにより、3年からの専門科目や実験・実習との科目間連携の強化を図り、学生間（クラス内外、異学年）のつながり強化による学修コミュニティを形成し、外部リソースを活用した社会課題の発見と解決を实践する取り組みがより顕著になりつつあります。近年では校外で開催されるコンテストに参加し、技術審査での説明や大舞台でのプレゼンテーションを立派に務めています。その時の表情や立ち振る舞いは、非常に頼もしく感じるとともに日頃の努力に敬意を表します。

高専5年間は、人生で最も心身ともに成長する時期です。知的なモノづくりを広げるための活動とそれを支える日々の生活について、学生たちと本学科スタッフは共に考え続けます。今年度も保護者の皆様にご支援とご協力をいただき、学生たちが大いに成長できる環境を整えていきたいと思っています。



制御情報工学科長から のご挨拶

制御情報工学科長
鈴木 康 人

2023年4月より制御情報工学科長を拝命しました鈴木康人と申します。

制御情報工学科は情報・電気・機械の各工学分野でコンピュータを活用して活躍できる人材の育成を目指している学科です。ご存知の通り、情報分野は技術の更新の速度が非常に早いといわれます。それでも、実際に使用されている技術の原理的な部分は同じであることもあります。例えば、オペレーティングシステムでデータを扱うとき、実際に搭載されているメモリの容量よりも、データのサイズの方が大きい場合、データ全体をメモリに読み込むのではなく、データを分割し、使用する部分だけ

読み込んで使用しています。インターネットでデータをやり取りする際にもこうしたアルゴリズムは使用されています。こうした処理は、目新しい方法ではなく、古くから使用されているアルゴリズムです。また、新しい技術のアイデアは古い技術を異なる目線で導入した結果として出てくる、ということもよく聞く言葉です。

制御情報工学科では、こうした考え方から、基本的な技術をきちんと教授し、社会で、新しい価値を創出して活躍できる人材の育成を目指しています。一方で、昨今、主として人工知能技術の発達、これまで想像もできなかった技術の可能性を示唆してきました。今年は、制御情報工学科の教育カリキュラムを見直し、新しい社会にも適用できるように体制を整える予定です。

制御情報工学科に在籍の学生さん、ならびに、OBの方、保護者の皆さんには、ご理解と変わらぬ協力を賜りますよう、よろしく、お願いいたします。



DISCE LIBENS 楽しんで学べ

物質工学科長
青山 陽子

今年度物質工学科の学科長になりました青山です。

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。沼津高専によろこ。そして、2年生以上の皆さん、今年もよろしく願います。

皆さんは、沼津高専を受験したとき、何を求めてこの学校を選んだか覚えていますか？

出願書類の志望動機の欄には、皆さんの夢や希望が詰まっていました。

しかし、残念なことに、学年が上がっていくと、段々とその夢を語ることが少なくなり、この科目は一体何の役に立つのか、手っ取り早く試験で合格点を取るには何を覚えたら良いのか、クラスでの自分の席次は何番なのか、そういったことばかりを気にする人が増えているように感じます。



「人がらのよい優秀な 技術者」づくりを目指 して

教養科長
小林 美恵子

4月より教養科長を拝命いたしました。どうぞよろしくお願いいたします。この春、教養科では小村宏史先生（国語）・前田隆子先生（英語）が退職され、遠藤良樹先生（数学）が嘱託教授から非常勤講師となりました。一方、新戦力として萩原康一郎先生（英語）・長谷川豊輝先生（国語）・米田慧司先生（数学）の3名が着任され、現員24名で活気に満ちたスタートを切っております。

改めて教養科に期待されている働きを確認すれば、専門科目を学ぶための基礎学力と幅広い教養、そして豊かな人間性を育むことが柱とされており、加えて、「人がらのよい優秀な技術者」となって世の期待にこたえよ」という教育理念の実現にも大きな責任を担っていると言えます。教養科目の学びの中には、自分や周囲を見つめる機会がより豊富にあり、そのことは学生の人格形成に直接影響を与えると思われるからです。しかしながら、よい人がらとはどのような姿を指すのでしょうか。

まずは、高専生として一人前になることを目指すのが第一歩となるでしょう。それは、〈学校生活を自主管理できる人〉と言えます。よく学びよく遊び、規則正しい毎日が保てる人。自ら自分の毎日を楽しく充実したものにできる人。それでいながら、問題が生じたら周囲の力

ラテン語でDISCE LIBENSという言葉があります。これは、「楽しんで学べ」という意味です。4世紀のローマの著述家、アウソニウスの言葉といわれています。もう一つ、第29代内閣総理大臣だった犬養毅が孫の犬養道子に贈った言葉『楽学』という言葉もこれに似ています。学ぶことを楽しむ、という意味でしょうか。

効率と成果が重視される世の中で忘れがちなのは、「学ぶこと自体を楽しむこと」だと私は思っています。色が変わった、光った、動いた、という感覚的な驚きは、理科に惹かれる第一歩でしょう。でも、なぜそうなるのか、その仕組みは何なのか、原理を学ぶプロセスは感覚や暗記だけでは通用しないのです。高専で勉強する科目はすぐに理解できることばかりではないかもしれません。でも、一つひとつの数式や化学反応の意味を考え、実験で手を動かし、頭をひねって考え、自分の力で理解できた時、皆さんもその学問の美しさに感動するはずです。理解する大変さも含めて楽しむことが重要なのです。時間をかけ、努力を積み重ねて得たものは、きっと皆さんの自信につながります。

一緒に楽しんで学んで参りましょう。

を借りて解決できる人。こんな風になれたら立派ですが、実現はそう容易ではありません。自分を律する力も必要ですし、周囲と上手に交わる力も必要です。忍耐も、優しさも、計画性や慎重さも欠かせません。しかし、自立した高専生を目指すこの困難な過程の中でこそ、これらの力が培われ、生来の個性と相まってすばらしい「人がら」をつくるのではないのでしょうか。教養教育が学生の心を豊かにし、学生を支え、「人がらのよい優秀な技術者」の輩出に貢献できることを願っています。



令和5年度 人事異動について

発 令 日 付	氏 名	異 動 の 内 容	旧 職 名 等
令和5年3月31日	井 上 聡	定年退職	准教授（機械工学科）
	熊 谷 雅 美	定年退職	教授（電子制御工学科）
	芳 野 恭 士	定年退職（嘱託教授に再雇用）	教授（物質工学科）
	小 村 宏 史	辞職	教授（教養科）
	前 田 隆 子	辞職	助教（教養科）
	遠 藤 良 樹	再雇用期間満了退職	嘱託教授
	西 田 友 久	再雇用期間満了退職	嘱託教授
	長 縄 一 智	再雇用期間満了退職（特命教授に採用）	嘱託教授
	中 澤 達 夫	雇用期間満了退職	特命教授
令和5年4月1日	横 井 敦 史	助教（機械工学科）に採用	
	米 田 慧 司	助教（教養科）に採用	
	長谷川 豊 輝	助教（教養科）に採用	
	萩 原 康一郎	助教（教養科）に採用	



令和5年度 校務分掌

令和5年4月1日現在

役 職	
校長	岡田 哲男
副校長（総務主事）	C 稲津 晃司
校長補佐（教務主事）	S 芹澤 弘秀
校長補佐（学生主事）	L 佐藤 誠
校長補佐（寮務主事）	M 永禮 哲生
校長補佐（研究主事） 地域創生テクノセンター長	C 竹口 昌之
校長補佐（専攻科長）	D 大庭 勝久
教養科長	L 小林美恵子
機械工学科長	M 新富 雅仁
電気電子工学科長	E 大津 孝佳
電子制御工学科長	D 鈴木 静男
制御情報工学科長	S 鈴木 康人
物質工学科長	C 青山 陽子
総合メディアセンター長	S 藤尾三紀夫
技術部長・教育研究支援センター長	D 川上 誠
事務部長	前田 輝伸
総務課長	長谷川武史
学生課長	福井 郁夫

教科主任	
国語	L 小林美恵子
社会	L 平田陽一郎
数学	L 鈴木 正樹
物理	L 駒 佳明
化学	L 小林 美学
体育	L 渡邊志保美
英語	L 成田 智子

学科・学級		担 任	副担任
機械工学科 (M科)	1 年	L ○鈴木 久博	M 鈴木 尚人
	2 年	L 渡邊志保美	
	3 年	M 前田 篤志	
	4 年	M 金 顯凡	
	5 年	M 三谷祐一朗	
電気電子工学科 (E科)	1 年	L 駒 佳明	E 小村 元憲
	2 年	L 村上 真理	
	3 年	E 高矢 昌紀	
	4 年	E 山之内 亘	
	5 年	E ○高野 明夫	
電子制御工学科 (D科)	1 年	L 設楽 恭平	D 青木 悠祐
	2 年	L 太田 匡洋	
	3 年	D 香川 真人	
	4 年	D ○鄭 萬溶	
	5 年	D 牛丸 真司	
制御情報工学科 (S科)	1 年	L 端川 朝典	S 宮下 真信
	2 年	L 小田 昇平	
	3 年	S 金子 裕哉	
	4 年	S 矢入 聡	
	5 年	S 山崎 悟史	
物質工学科 (C科)	1 年	L 榎本 翔太	C 藁科 知之
	2 年	L ○芳賀多美子	
	3 年	C ○新井 貴司	
	4 年	C 山根 説子	
	5 年	C 伊藤 拓哉	

○：学年代表

令和5年度 クラブ・同好会顧問教員

令和5年4月1日現在

クラブ・同好会名		顧 問 教 員 名 (☆は連絡責任者)				
1	陸 上 競 技 部	☆渡邊志保美	村上 真理	金 顯凡		
2	ソ フ ト テ ニ ス 部	☆平田陽一郎	佐藤 崇徳			
3	バ レ ー ボ ー ル 部	☆小田 昇平	小林 美学	大庭 勝久		
4	バスケットボール部	☆鈴木 尚人	萩原康一郎	遠山 和之		
5	野 球 部	☆香川 真人	長谷川豊輝	横井 敦史	米田 慧司	金子 裕哉
6	卓 球 部	☆芳賀多美子	黒澤 恵光	高野 明夫		
7	剣 道 部	☆新井 貴司	澤井 洋			
8	サ ッ カ ー 部	☆山之内 亘	前田 篤志	駒 佳明	山崎 悟史	
9	ラ グ ビ ー 部	☆設楽 恭平				
10	体 操 部	☆大久保進也	佐藤 誠			
11	水 泳 部	☆大澤 友克	榎本 翔太	新富 雅仁	小谷 進	端川 朝典
12	合 気 道 部	☆横山 直幸				
13	テ ニ ス 部	☆小村 元憲	竹口 昌之	伊藤 拓哉		
14	ハ ン ド ボ ー ル 部	☆野毛 悟	高矢 昌紀			
15	弓 道 部	☆青山 陽子	太田 匡洋			
16	空 手 道 部	☆矢入 聡	鈴木 久博			
17	バ ド ミ ン ト ン 部	☆古川 一実	藤尾三紀夫	牛丸 真司		
18	ト ラ イ ア ス ロ ン 部	☆三谷祐一朗	後藤 孝信			
19	吹 奏 楽 部	☆藁科 知之	山中 仁	山根 説子		
20	囲 碁 将 棋 部	☆鈴木 静男	住吉 光介			
21	ロ ボ コ ン 部	☆青木 悠祐	川上 誠	鄭 萬溶		
22	天 文 部	☆大川 政志				
	同 好 会 (理工系)	☆村松久巳(機)	☆鈴木康人(プ)	☆鈴木正樹(数)	☆大津孝佳(知)	嶋 直樹(知)
	同 好 会 (芸術系)	☆宮下真信(軽)	☆西村賢治(大)	☆成田智子(茶)	☆大沼 巧(ア)	

同好会（理工系）：23機械工学・24プロコン・25数理・26知財

同好会（芸術系）：27軽音楽・28大道芸・29茶道・30アカペラ

着任挨拶



初めての静岡、 初めての高専

機械工学科

横井 敦史

本年度4月より機械工学科に着任しました、横井敦史と申します。

愛知県春日井市で生まれ育ち、愛知県内の名城大学に入学し、同大学理工学研究科機械工学科にて博士（工学）の学位を取得しました。その後、東北大学、公益財団法人 電磁材料研究所および豊橋技術科学大学などで研究生活を送ってきましたが、今回初めて富士山を毎日眺められる静岡県で勤務となりました。静岡県に引っ越してきて、まず驚いたことが、「水道水」のおいしさです。調べたところ、富士山、愛鷹山そして箱根山に降った雨水や雪解水が使用されていることが美味しさの秘密のようです。さらに、これほどのおいしさで、水道代金が日本国

内で第4位の安さ！（長泉町／令和2年4月）。春夏秋冬の富士山の景色、そして自然豊かな環境で勤務する喜びをかみしめております。

私の研究分野は、セラミックス材料をはじめとする無機材料です。特に、原料として用いる「粉」をひと工夫した、新たな粒子設計の技術を専門に研究しています。「粉を制するもの、次世代モノづくりを制する！」の言葉を胸に、構造材料、機能性材料、生体材料さらには思いもよらない業界への幅広い研究展開を行っていきます。

前職の豊橋技術科学大学では、全国の高専から編入してくる学生と一緒に研究活動を行ってきました。その中で、日ごろから高専出身の学生の実行力、高い考察力にはいつも驚かされてばかりでした。そして、その多くの学生が技術的思考およびディスカッション能力を有していたことから、高専教育は技術的観点から非常に質が高いと感じています。私自身、高専教育は初めてになるのですが、学生の皆さんが技術者としての将来に向かって、工学を独創的に活用できる教育を行っていきます。どうぞよろしくお願いいたします。



沼津高専での数学教育 について

教養科

米田 慧司

令和5年度4月1日付けで教養科の数学の教員として着任致しました、米田慧司と申します。本校に着任する以前は、九州大学大学院数理学府の修士課程および博士課程において偏微分方程式関連の研究をしていました。初めに、私が数学の研究者としての道を志した経緯をご紹介します。中学の数学の授業で球の体積は「身の上に心配あーの三乗」と習いました。当時の私は、 $4/3$ という微妙な分数に納得がいかず、もやもやした気持ちを抱えながら公式を暗記することしかできませんでした。その後高校に進学し、2年生の微分積分の授業で回転体の体積の導出方法を学び、「積分を使うことでこんなにきれいに公式が導出ができるのか」と感動したのを覚えています。その頃から、微分積分をはじめとする数学という学問に魅了され、偏微分方程式の研究者を志すに至りました。私のように、授業を通して数学に興味をもつような学生もいると思うので、少しでも数学に興味を持ってもらえるような授業づくりを行っていきます。

また高専では高校や大学とは異なる独特なカリキュラムで授業が進んでいくため、その忙しさがゆえに数学に苦手意識を持ってしまう学生も少なからずいると思いま

す。「鉄は熱いうちに打て」ということわざがありますが、数学に関しては特に当てはまると私は考えています。学生たちには数学のことでわからないことがあれば、なんでもすぐに訊きにきてくれると大変嬉しいです。ただ私が高校生だった頃を思い返してみると、部活動や友人との付き合いなど勉強以外のことでとても忙しかったように思えます（かく言う私も高校時代は吹奏楽部の活動に全力を注いでいました）。勉強以外のことで何か一つのことに熱中し、何かを成し遂げることはとても大事なことでと思います。そのために勉強以外に忙しい学生もそうでない学生もしっかりサポートしていきますので、皆様ご支援を何卒宜しくお願い申し上げます。





素数の輝き

教養科

長谷川 豊 輝

春より着任いたしました長谷川豊輝（はせがわとよき）と申します。よろしくお願いいたします。専門は古代文学です。神話や伝承がどのようにつくられ、伝わっていったのかを研究しています。

私の高等教育における教壇デビューは東京都立産業技術高等専門学校であり、大学での教壇デビューは東京電機大学でした。文学部出身ではございますが、理工系の分野には不思議なご縁を感じております。

高専で授業をしていると、学生一人一人の存在が素数っぽくていいなと思うことがあります。自由でおおらかな雰囲気の中でそれぞれが専門性を研いていく……。永遠に続いていく問いの中で、自分にとって「一番金ピカなこと」（『宇宙兄弟』より）を見つけて究めていく……。沼津高専には、そんな研究の世界に没頭できる素晴らしい

環境があります。とはいえ、あわただしい日々の中で、ぼーっとしたいなと思う瞬間があるかもしれません。そんな時は、専攻科棟や講義棟の大窓から沼津・長泉・三島の街並みを眺めてみてください（夜景がおすすめです）。昔、このあたりは原っぱがひろがっており、小さな集落が点在しているに過ぎませんでした。しかし、何千年かの時を経る中で、豊かな環境を求めて人々が集まり、こんなに素敵な街ができていったのです。その過程でたくさんの発見があり技術が磨かれていったことでしょう。こうした人々の営みに思いを馳せつつ街並みを眺めるとがんばろうという気持ちが沸き上がってくると思います（BGMには、Christopher Tinの「Baba Yetu」がおすすめです）。

最後に『古今和歌集』から西行の富士山歌を紹介し、着任挨拶を締めくくりたいと思います。

風になびく富士の煙の空に消えて

ゆくへも知らぬわが思ひかな

日本で一番高い山に見守られ、日本で一番深い海に育まれながら、みなさんに負けないう研に究に励んでいきたいと思います。



英語を身につけること

教養科

萩 原 康一郎

英語を担当する萩原と申します。長らく近畿圏の大学や専門学校で英語と人文教養を教えてきました。初めての静岡県、初めての高専です。毎日、新しい発見があり、新しい環境を楽しんでいます。

物語論や認知言語学を研究しています。認知言語学は、英語教育にも関連のある分野です。授業では、専門知識を活用し、ネイティブの時間や空間や物事の捉え方が、どのようにことばや文法に反映されているかを伝えていきます。暗記すべき記号でしかなかった単語、形式的なルールでしかなかった文法が、にわかに血の通った人間のことばとして立ち現われたときの、学生の「あ、わかった」という顔を見ることが楽しみの一つです。

もちろん授業だけで英語力が伸びるということはありません。日々、辞書を引き、文章や会話を解釈し、音読を繰り返して、独習を積み重ねることが不可欠です。感覚器官、発声器官、身振りのための手足。これら言語とコミュニケーションに関わる器官をフル動員して学び、ことばを身体に根づかせることで初めて、英語を自然と聞き取ったり話したりすることができるようになります。文字通り「身につく」まで、体と頭を使って学び続けることが外国語習得の最短の道です。

最近では、DeepLなど優れた翻訳ツールが身近なものになりました。ChatGPTも高い精度で正確な翻訳をしてくれます。大いに活用したいと思います。とはいえ、いくら翻訳ツールを使っても、結局のところことばを取り交わすのは人間です。機械が生み出す無味乾燥なことばに「意味」を吹き込むには、ことばがどのような文化的背景や世界の捉え方とともに使われているかを「身」をもって知る体験が欠かせません。そのためにも、機械に頼りすぎず、まずは自分の目と耳、声と手足を使って英語を学んでほしいと思います。

皆さんにそのような学びの場と機会を提供し、英語4技能の運用能力を高めてもらうことが、沼津高専における私のミッションです。



新入生から (入学にあたり)

初心を大切に

機械工学科 1 年

紅 林 祐 聖

今年から僕は「高専の学生」と呼ばれます。自由である分、責任が伴います。自主、自立を心掛けなくてはなりません。そのために、僕は次の三つを心掛けたいです。

一つ目は学習です。基礎科目にも、専門科目にも、自主的に課題に取り組んでいきたいと思えます。特に数学と物理はこれからの学習の中で『道具』となります。できることが目的ではなく、応用し使えるようになることが目的だということを常に頭に入れて、応用力がつくことをめざして、学習に取り組みたいです。

二つ目は日々の生活です。初めての寮生活が始まり、まだ慣れないところもありますが、先輩方とのコミュニケーションを大切にしたり、毎日のルールを守ったりして、共同生活に慣れていきたいです。寮生活を通して、人として自立し、社会生活上でのルール、他人とのかか

わり方を身につけたいです。

高専には、楽しく個性あふれる、しかも深い知識を持った人がたくさんいて、寮も学校も毎日がとても充実しています。自分自身がしっかりとするとともに、自分の周りにも気を配りながら、一人でも多くの信頼できる仲間を作っていきたいです。

三つ目に進路を切り拓くことです。自分は高専生であり、自分の将来は自分で決めるということを忘れないようにしたいです。五年後の進路に向け、自分は、将来何をしたいのか、そのために、今何をするのかということに常に考えて生活していきたいです。

僕は、中学三年生の時、本校の体験学習に何回か参加しました。そのときに、ある先生から聞いた、「機械工学は基幹工学だ」という言葉に深い感銘を受けました。この時から、高専に入学したいと強く思うようになりました。そして、入試に向けて勉強に取り組んできました。同時に、高専で何をしたいのか考えてきました。

目標を高く持ち夢に向かって更なる進歩を目指してこれからの日々を過ごしていきたいです。

自由って難しいな。

制御情報工学科 1 年

門 柊 太

これは私が高専に入学してとても強く感じたことです。沼津高専は制服がなかったり、部活への入部や参加が強制されないなど、普通の公立・私立の高校と比べ制約が小さく自由な学校です。

私は、勉学の面でもこの自由を感じるがあります。例えば、他校の友人に聞いて比べてみると現時点では課題が比較的少ないように感じます。しかし、だからといって勉強しないと、近い将来学ぶ内容の専門性が高まった時にどういう風に勉強すれば良いのか分からず大変なことになってしまいます。つまり、自ら勉強する自主性が

求められているのです。

私は、自分の弱さは、意思が弱いことだと思っています。勉強をしなければならないのに、楽な方に、楽しい方に行ってしまいます。中学生の時は、塾や家庭学習用教材のおかげで勉強することが出来ていましたが、高専では学習の進み方が他の高校と違い、塾などはありません。私は勉強時間が確実に減っているのを感じました。そのような生活を送っていたら、世の期待にこたえることのできる技術者になることはできません。そこで私は、Fuji Cafe などの勉強の助けになる施設を利用して取り組むようにしています。

「自由をコントロールする。」これは、私が今年 1 年でできるようになりたいことです。自由をコントロールし、勉強だけでなく、所属しているロボコン部での活動や趣味を充実させ、自分が社会の役にたつことの出来る技術者になることができるように経験を積み成長したいです。

技術者への一歩

物質工学科 1 年

寺 田 侑太郎

高専に入学して、早くも一ヶ月が経ちました。クラスメイトや先輩との関わりも少しずつ増え、だんだんと学校や寮での生活に慣れてきた今、私が感じていることや

抱いている抱負を綴ろうと思います。

この一ヶ月で特に感じた事は、高専での生活の過ごしやすさです。もちろん、ある程度学生に自由が認められていることもその要因だと思いますが、私にとって大きな要因となっているのは、自分の好きな分野や追究したい分野の事を同じように好きな同級生や先輩がいる事、そしてその分野を専門とする先生方から授業を受けられる事です。些細な事です、ふとした時に友人と話す工学的な内容が噛み合う事や、専門分野について先生に気

軽に質問しに行けるような環境である事は、私にとって大きな支えとなっています。また挨拶などの礼儀を重んじる所や、寮で学生自ら定めた規則がしっかりと設けられている事も、学生にとっての過ごしやすさに直結していると感じました。

高専の学生になって一ヶ月が経ち、中学生の頃はゴールだと思っていた高専への入学が、スタートラインとしての意味を持ち始めたということが現実的な課題となって私たちに降りかかってきています。今、私たち一年生に最も必要とされているのは目標を確立することではな

いでしょうか。目標と今やるべき事を掲げて主体的に取り組む人には、大きな成長と学びを与えてくれるのが高専の環境であると、この一ヶ月でとても感じました。だからこそ、一ヶ月前の自分が、何を求めて、どんな自分を目指してこの学校に入学したのかという問いを今後の目標の材料とすることで、高専での生活に大きな意味を持たせていく事が、世の期待に応える技術者としての第一歩となるでしょう。その一歩を踏み出すことを抱負として掲げ、これからの高専生活を価値あるものにしていきたいです。

留学生から

留学生の沼津高専に対する印象

電気電子工学科3年

ロビー ロビンソン ネルソン

私の名前はロビーと申します。私は留学生として沼津高専に入学しました。この学校の印象について、以下に記述いたします。

沼津高専への入学を決めた理由は、その高い学術水準と優れたカリキュラムでした。入学してから数週間終わりましたが、私はこの学校の優れた面に心底感銘を受けています。

まず、この学校の教師は非常に熱心で専門知識にも優れています。授業では分かりやすい説明と実践的な学習方法を提供してくれます。また、質問や相談に対しても親切に応じてくれるので、日本語が苦手な私でも安心して学ぶことができています。

また、学校の施設や設備も非常に充実しています。図書

館は広々としており、多くの参考書や研究資料が揃っています。実験室やコンピュータ室も最新の機器が整っており、学生が実践的なスキルを身につける環境が整っています。さらに、キャンパス内には美しい庭園やスポーツ施設もあり、学業以外の時間も充実した生活を送ることができます。

そして、この学校の学生たちも非常に友好的で協力的です。私が日本語をまだ上手でないことを知っているので、クラスメートや先輩たちはいつも助けてくれます。彼らとの交流を通じて、日本語の上達だけでなく、異文化理解も深めることができています。

さらに、沼津高専は町の中心部に位置しており、生活に便利な環境です。ショッピングセンターやレストラン、公園などが近くにあり、休日には周辺地域の観光名所を訪れることもできます。また、交通の便も良く、他の都市へのアクセスも容易です。

これまでの経験から、私は沼津高専を選んだことを心から喜んでいます。学術的な成長だけでなく、人間性の向上も求められる環境です。

沼津高専での新しい旅

制御情報工学科3年

ジョジ スタインズ ガオン アナク デニス

はじめまして、僕の名前はジョジで、マレーシアから日本に留学してきて沼津高専の3年生に入学しました。この原稿では、私の経験についてお伝えしたいと思います。今年はS3に入りました。

沼津高専の制御情報工学科に所属している私は、日本の文化や学校生活に慣れるために様々な経験を積んできました。まず、私は日本の料理が大好きで、特にかから揚げが一番のお気に入りです。日本の食文化に触れることは、留学生としての貴重な経験でした。

沼津高専には、トイレや自動販売機が設置されている

便利な環境が整っています。これは学生にとって非常に便利で、快適な学校生活を送ることができる要素です。

勉強は大変ですが、幸運なことに私を取り囲む仲間たちはいつも助けてくれました。クラスメートのとき、はるひ、のりひこ、きげんさん、はるき君、おだじゅんさん、そうた君とは、勉強やゲームを通じて一緒に過ごすことが多く、とても楽しい時間を共有しています。それから、入試・国際交流係の佐藤さんが学校に関する様々な悩みを解決してくれました。また、外食もできるだけ毎日楽しむようにしています。

テストが近づくにつれて、私は一生懸命に頑張っています。幸いなことに、沼津高専の先生方は優しく、学生たちの成長をサポートしてくれます。また、先輩のファジルさんとザトゥルさんも、留学生として生活に慣れるために手助けしてくれました。彼らのアドバイスや励ましは私にとって大きな支えとなりました。

私の留学生としての沼津高専での経験はまだ始まったばかりですが、これまでの時間は私にとって宝物です。多くのことを学び、成長する機会を与えてくれた沼津高専に感謝しています。

以上が、私の留学生としての沼津高専での経験についてのお話でした。今後もさらに多くの素晴らしい経験を積んでいけるように、全力で取り組んでいきたいと思えます。

寮生活会活動について

今までとこれからの寮生活

寮長 物質工学科4年
清水 太陽

私は今年度の寮長として、コロナ禍以前の活気溢れる楽しい寮生活の復活を目標に掲げています。

3年前、私の寮生活は新型コロナウイルス感染症対策下でスタートしました。入学した4月には寮生活への期待を抱きながらも、学校が始まったのは5月中旬であり、さらに授業は遠隔で行われました。沼津高専の志望理由の一つに寮生活への憧れがあった私にとって、少し残念に思うスタートでした。入寮後も、在寮生数が半分にされたり、風呂や食事の時間を各棟のフロアごとに細かく決められたりと、三密を避けた寮生活でした。

今年度も新型コロナウイルス感染症対策で培われた制限の下で寮生会を運営していますが、以前に比べて制限が大幅に緩和され、多くのイベントができるようになり

ました。最近では5月13日(土)と14日(日)に寮前日祭と寮祭が行われ、寮生、教職員や保護者の方々から良い寮祭だったと感想をいただきました。寮祭実行委員の寮生、寮監の先生をはじめとする関係教職員、そして協力してくださった保護者の方々にこの場を借りて厚く御礼申し上げます。

様々なイベントを予定していますが、上述の通り、私はコロナ禍以前の寮生活を体験していません。その為、多くのことを寮の役員や教職員の方々と相談しながら手探りで模索しています。私は、コロナ禍前の寮生活の活気を取り戻しつつも、古い習慣などの不要なルールを改善し、全寮生に寮生活が楽しいと言ってもらえる寮にしたいと思っています。今年度は、寮生からの意見収集システムを作りました。隔週で行われる各棟のフロアごとのミーティングでは、寮生から階長へ、階長から棟長へ、棟長から寮長へと意見を集約しています。このシステムで低学年寮生の意見を取り入れた結果、寮生活の改善に繋がりました。寮生のみなさんと一緒に、より良い寮生活を作り上げていきたいと思えます。

教育後援会から

より充実した「後方支援」のために

教育後援会会長 山口 直子

空の青さに夏の訪れを感じる季節となりました。皆様におかれましては、益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。

今年も、県内外はもとより海外からも多くの学生を迎えて新年度がスタートしました。新たに加わった新入生の皆さん・保護者の皆様、ご入学おめでとうございます。

中学卒業時に高専を選択するのは実に「100人に1人」という割合だそうです。15歳の時点で自らの進み道を見極め、「5年制」「専門教育」「寮生活」という1%の特異な道を選ぶほどに自己の興味関心を理解できている、というのは素晴らしいことだと思います。

2020年からこの3年間、皆様も実感されているように、世の中は凄まじいスピードで予測不可能な変化を辿ってきました。「VUCA（ヴェーカ）時代」といわれるように、

変動性（Volatility）が高く不確実（Uncertainty）で複雑さ（Complexity）と曖昧さ（Ambiguity）を含む社会の中で、コロナの不安を感じながらも皆必死に生き抜いてきました。

そんなVUCA時代を「自分らしく生き抜くための“4S”」について紹介させていただきます。「4S」とは「自己理解（Self）」「支援（Support）」「状況理解（Situation）」「戦略（Strategies）」の4つです。

沼津高専にはこの“4S”が揃っています。時代のニーズや状況をよみながら、教育研究活動に力を注ぐ学校。興味関心を自己理解してその分野を探究する学生。学校・学生に必要なサポートを行う教育後援会。

コロナ禍の3年間、学校・学生・教育後援会の3者が協力・協働してきたことで、集団感染や大規模休校もなく過ごすことができました。寮という大所帯を抱える教育機関で、この成果は容易でなく大きな意義があります。

教育後援会は2016年に、年一回全会員が一堂に会していた旧体制を改めました。【三島／沼津／富士／静岡／浜松の5支部＋学生／寮生／教育の3専門部＋本部】とい

う新体制となり今年で8年目です。

私事ですが、子供二人が沼津高専でお世話になり保護者歴8年目です。旧体制と新体制を両方経験した者としては、学校・学生・保護者間の意思疎通がよりスムーズになり、各取り組みや問題解決がスピードアップするなど、明らかな成果として改善されてきたことを実感しております。

コロナによる制約も緩和されてきた今、教育後援会として歴代積み重ねてきた知見を活かし、これまで以上に充実した支援ができるよう、皆様の更なるご理解・ご協力をお願い申し上げます。

Kメールや支部会の場合でもご案内させて頂きましたが、

保護者の皆様からの学生応援メッセージを年間通じて募集しております。奮ってご応募ください。



令和5年度理事

三つのポリシー

沼津高専の本科・専攻科では、以下に掲げる三つのポリシーに従って、教育活動を実践する。

このポリシーを基にして、教育の改革・改善に向けた検討を進める。

ディプロマ・ポリシーは、卒業認定の方針である。

カリキュラム・ポリシーは、教育課程編成・実施の方針である。

アドミッション・ポリシーは、入学者の受入れの方針である。

本科

【ディプロマ・ポリシー】

全課程を修了して167単位以上（一般科目75単位以上、専門科目82単位以上）を修得し、以下の能力を身につけた学生の卒業を認定する。

- A 技術と自然や社会との関わりや技術が関わる社会問題に関する具体的事例について、技術者の社会的責任を工学倫理の原則に基づき説明できる能力。
- B 環境エネルギー工学、新機能材料工学、医療福祉機器開発工学等の複合・融合領域に関する課題に数学、自然科学及び情報技術の知識を適用できる能力。
- C 機械工学、電気電子工学、情報工学、応用化学、生物工学のうち、いずれかの専門的知識を理解できる能力、及び工学的課題を解決するため、必要な情報やデータをハードウェア、ソフトウェアにより収集し、整理できる能力。
- D 自己の学習・研究活動の経過を、専門用語を正しく用いて、報告できる能力、及び自己の研究等に関する英語の記述や論文を7割程度理解でき、自己の研究成果等の概要を英語でわかりやすくまとめることができる能力。
- E 工学技術に関する具体的課題にチームで取り組む際、チームでの自分の役割を把握して行動し、活動の進捗状況をメンバーに報告できる能力及び自己の研究に関連する文献を調査・選択し、講読できる能力。

【カリキュラム・ポリシー】

ディプロマ・ポリシーに沿って、以下のカリキュラムを編成する。

- A 技術と自然や社会との関わりや技術が関わる社会問題に関する具体的事例について、技術者の社会的責任を工学倫理の原則に基づき説明できる能力を身につけるため、1～3年次に人文・社会科学（社会）に関する科目で国立高等専門学校モデルコアカリキュラムの規定する到達レベル（以下「Level」という。）Level 2（理解レベル）までを、4・5年次にLevel 3（適用レベル）までを身につける。
- B 環境エネルギー工学、新機能材料工学、医療福祉機器開発工学等の複合・融合領域に関する課題に数学、自然科学及び情報技術の知識を適用できる能力を身につけるため、1～3年次に数学及び自然科学（物理・化学）に関する科目でLevel 2（理解レベル）までを、4・5年次にLevel 3（適用レベル）までを身につける。
- C 機械工学、電気電子工学、情報工学、応用化学、生物工学のうち、いずれかの専門知識を理解できる能力を身につけるため、5年間で専門科目82単位以上を履修する。また、工学的課題を解決するために必要な情報やデータをハー

ドウェア、ソフトウェアにより収集し、整理できる能力を身につけるため、5年次に卒業研究を履修する。

- D 自己の学習・研究活動の経過を、専門用語を正しく用いて、報告できる能力を身につけるため、4・5年次に人文・社会科学（国語）に関する科目でLevel 3（適用レベル）までを身につけ、5年次に卒業研究を履修する。また、自己の研究等に関する英語の記述や論文を7割程度理解でき、自己の研究成果等の概要を英語でわかりやすくまとめることができる能力を身につけるため、1～3年次に人文・社会科学（英語）に関する科目でLevel 2（理解レベル）までを、4・5年次に工業英語に関する科目でLevel 3（適用レベル）までを身につける。
- E 工学技術に関する具体的課題にチームで取り組む際、チームでの自分の役割を把握して行動し、活動の進捗状況をメンバーに報告できる能力を身につけるため、1～5年次に卒業研究を除く実験・実習・演習に関する科目16単位以上を履修する。また、自己の研究に関連する文献を講読できる能力を身につけるため、5年次に卒業研究を履修する。

【アドミッション・ポリシー】

以下の意欲、及び学力を有する者を、推薦選抜においては、調査書、推薦書、個人面接により、学力選抜においては、学力検査、調査書により確認し、受け入れる。

1. 科学技術に興味を持ち、入学後の学習に対応できる基礎学力を有する者。（知識・技能）
2. 科学技術を用いて社会に貢献する意欲の有る者。（主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度）
3. 科学技術の役割、技術者の責任を考えられる者。（思考力・判断力・表現力等の能力）
4. 他人の意見を聞き、自らの意見を言える者。（思考力・判断力・表現力等の能力）

専攻科

【ディプロマ・ポリシー】

以下の能力を身につけ、専攻科に2年以上在学し、所定の単位修得条件の下で合計62単位以上を修得した学生の修了を認定する。

- A 社会的責任の自覚と地球・地域環境についての深い洞察力和多面的考察力
- （A－1）「異なる文化、価値観」や「自然との調和の必要性」を理解し、工学技術上の課題に対して地球・地域環境との調和を考慮し行動することができる能力。
- （A－2）「工学倫理」及び「社会問題に対して技術者の立場から適切に対応する方法」を理解し行動することができる能力。
- B 数学、自然科学及び情報技術を応用し、活用する能力を備え、社会の要求に応える姿勢
- （B－1）数学、自然科学及び情報技術の知識を、環境エネルギー工学、新機能材料工学、医療福祉機器開発工学等の複合・融合領域に派生する社会的ニーズに応えるために活用することができる能力。
- C 工学的な解析・分析力及びこれらを創造的に統合する能力
- （C－1）機械工学、電気電子工学、情報工学、応用化学、生物工学などの専門的技術を身につけ、これらの技術を複合的に活用して、環境エネルギー工学、新機能材料工学、医療福祉機器開発工学等の分野に創造的に応用することができる能力。
- （C－2）工学的に解析・分析した情報やデータをパソコン等により整理し、報告書にまとめることができる能力。
- （C－3）社会のニーズに応えるシステムを構築するために、エンジニアリングデザインを提案できる能力。
- D コミュニケーション能力を備え、国際的に発信し、活躍できる能力
- （D－1）日本語で、自己の学習・研究活動の経過を報告し、質問に答え、議論することができる能力。
- （D－2）自己の研究成果の概要を英語で記述し、発表することができる能力。
- E 産業の現場における実務に通じ、与えられた制約の下で実務を遂行する能力並びに自主的及び継続的に自己能力の研鑽を進めることができる能力と姿勢
- （E－1）工学技術に関する具体的な課題にチームで取り組み、その中で担当する実務を適切に遂行することができる能力。
- （E－2）日常の業務や研究に関連した学会等が発行する刊行物を、定期的・継続的に目を通して実務に応用することができる能力。

【カリキュラム・ポリシー】

ディプロマ・ポリシーに沿って、以下のカリキュラムを編成する。

1. 教育課程を一般科目、コース専門科目、専門共通科目、専門展開科目によって編成する。
2. 一般科目を必修科目（工学倫理、語学系）と選択科目（人文社会科学系）に分類し、必修8単位のほか、選択2単位以上を修得する。
3. コース専門科目は選択科目（環境エネルギー工学系、新機能材料工学系、医療福祉機器開発工学系）のみとし、所属コースのコース専門科目を10単位以上修得する。
4. 専門共通科目を必修科目（知的財産）と選択科目（数学、自然科学系）に分類し、必修2単位のほか、選択6単位以上を修得する。
5. 専門展開科目を必修科目（専攻科研究Ⅰ～Ⅲ、専攻科実験、学外実習、実践工学演習）と選択科目に分類し、必修24単位のほか、選択10単位以上を修得する。
6. 設計・システム系、情報論理系、材料・バイオ系、力学系、及び社会技術系の5科目群系に科目を分類した場合、合計6科目以上、各群系から1科目以上を修得する。
7. ディプロマ・ポリシーに示される各能力に対応する科目を1科目以上修得する。

上記7に関し、各能力と授業科目とは以下のように対応する。

- A 社会的責任の自覚と地球・地域環境についての深い洞察力和多面的考察力
- (A-1) 「異なる文化、価値観」や「自然との調和の必要性」を理解し、工学技術上の課題に対して地球・地域環境との調和を考慮し行動することができる能力を身につけるため、一般科目（人文社会科学系）、コース専門科目（環境エネルギー工学系）でLevel 4（分析レベル）までを身につける。
- (A-2) 「工学倫理」及び「社会問題に対して技術者の立場から適切に対応する方法」を理解し行動することができる能力を身につけるため、一般科目（工学倫理）、コース専門科目（環境エネルギー工学系、医療福祉機器開発工学系）、専門共通科目（知的財産）でLevel 4（分析レベル）までを身につける。
- B 数学、自然科学及び情報技術を応用し、活用する能力を備え、社会の要求に応える能力
- (B-1) 数学、自然科学及び情報技術の知識を、環境エネルギー工学、新機能材料工学、医療福祉機器開発工学等の複合・融合領域に派生する社会的ニーズに応えるために活用することができる能力を身につけるため、専門共通科目（数学、自然科学系）、コース専門科目（新機能材料工学系）、専門展開科目（選択）でLevel 4（分析レベル）までを身につける。
- C 工学的な解析・分析力及びこれらを創造的に統合する能力
- (C-1) 機械工学、電気電子工学、情報工学、応用化学、生物工学などの専門的技術を身につけ、これらの技術を複合的に活用して、環境エネルギー工学、新機能材料工学、医療福祉機器開発工学等の分野に創造的に応用することができる能力を身につけるため、コース専門科目（環境エネルギー工学系、新機能材料工学系、医療福祉機器開発工学系）、専門展開科目（専攻科研究Ⅰ～Ⅲ、選択科目）でLevel 4（分析レベル）までを身につける。
- (C-2) 工学的に解析・分析した情報やデータをパソコン等により整理し、報告書にまとめることができる能力を身につけるため、専門展開科目（専攻科研究Ⅰ～Ⅲ）でLevel 4（分析レベル）までを身につける。
- (C-3) 社会のニーズに応えるシステムを構築するために、エンジニアリングデザインを提案できる能力を身につけるため、専門展開科目（選択）、コース専門科目（環境エネルギー工学系、新機能材料工学系、医療福祉機器開発工学系）でLevel 4（分析レベル）までを身につける。
- D コミュニケーション能力を備え、国際的に発信し、活躍できる能力
- (D-1) 日本語で、自己の学習・研究活動の経過を報告し、質問に答え、議論することができる能力を身につけるため、専門展開科目（専攻科研究Ⅰ～Ⅲ）でLevel 4（分析レベル）までを身につける。
- (D-2) 自己の研究成果の概要を英語で記述し、発表することができる能力を身につけるため、一般科目（語学系）、専門展開科目（専攻科研究Ⅲ）でLevel 4（分析レベル）までを身につける。
- E 産業の現場における実務に通じ、与えられた制約の下で実務を遂行する能力並びに自主的及び継続的に自己能力の研鑽を進めることができる能力と姿勢
- (E-1) 工学技術に関する具体的な課題にチームで取り組み、その中で担当する実務を適切に遂行することができる能力を身につけるため、専門展開科目（学外実習、実践工学演習、専攻科実験）でLevel 4（分析レベル）までを身につける。

(E-2) 日常の業務や研究に関連した学会等が発行する刊行物を、定期的・継続的に目を通して実務に応用することができる能力を身につけるため、専門展開科目（専攻科研究Ⅰ～Ⅲ）でLevel 4（分析レベル）までを身につける。

【コース別カリキュラム・ポリシー】

コース専門科目は、各コースにおいて下記の方針で編成され、実施される。

(1) 環境エネルギー工学コース

機械工学、電気電子工学、応用物質工学、情報工学などの工学分野を融合複合した、環境と新エネルギー、エネルギー変換工学及びエネルギー応用工学を中心に深く学修し、A-1、A-2、C-1、C-3に対応した能力をLevel 4（分析レベル）までを身につける。

(2) 新機能材料工学コース

機械工学、電気電子工学及び応用物質工学分野を支える基盤材料として、金属、セラミックス・炭素材料、高分子、生物材料の構造や物性、材料設計作成法について包括的に学修し、B-1、C-1、C-3に対応した能力をLevel 4（分析レベル）までを身につける。

(3) 医療福祉機器開発工学コース

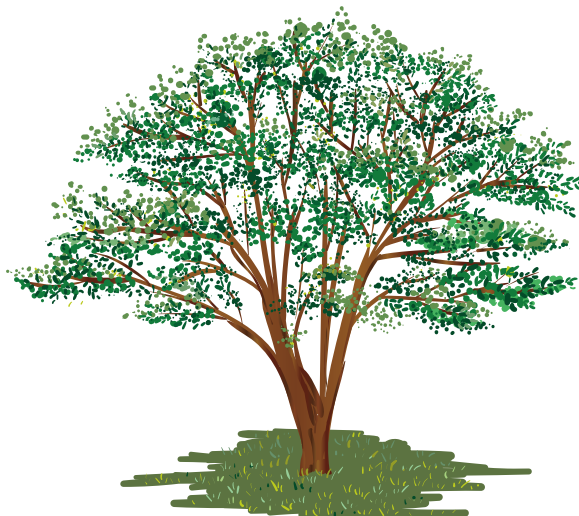
機械工学、電気電子工学、情報工学などの工学分野並びに解剖生理学、生体医用工学など医工学分野を融合複合した、医用機器工学、福祉機器工学などを中心に深く学修し、A-2、C-1、C-3に対応した能力をLevel 4（分析レベル）までを身につける。

【アドミッション・ポリシー】

以下の意欲、学力及び経験を有する者を受け入れる。

1. 広い視野と深い専門性を身につけて、社会の発展、公衆の福祉に寄与する意欲を有する。
2. 工学教育を受けるために必要な数学、自然科学及び英語の学力を有する。
3. 基礎的な工学について、一定の指導と訓練を受け、実践した経験を有する。

これらをこれまでの学習成果、自己申告書、推薦書、試験、面接などによって確認する。



お知らせ

令和5年度 沼津高専一日体験入学のお知らせ

本年度も、中学生、保護者及び中学校の先生方に沼津高専をより深く知っていただくため、下記のとおり一日体験入学を実施します。

本校の一日体験入学は、中学生その他の参加者に、沼津高専の興味のある学科や施設などを自分の目で自由に見ていただき、進路決定において目的意識を持ち、本校への進学意思を固めていただくことを目的としてきました。毎年実施しているアンケート結果によると、参加生徒、保護者のほとんどが、進学したくなった、楽しかったと満足していただくことができ、当初の目的を達成することができました。

本年度一日体験入学の内容は、各学科紹介、学生寮見学、学生会企画及びクラブ紹介、学内施設紹介などを予定しています。また、中学生及び保護者の方に好評を得ております進学説明会も実施します。この一日体験入学によって、毎年多数の中学生が本校を知り、入学を志望、決意しています。本校在籍の学生及び保護者の皆さん、ぜひ出身中学校の恩師・後輩又は知人の方々を通じ本校体験入学への参加をお勧め下さるようお願いします。

なお、参加できる時間帯を居住地により分けて開催します。

午前の部（9：30～12：30）静岡県東部地域在住の方

午後の部（13：00～16：00）静岡県中部、西部地域及び静岡県外在住の方

一日体験入学

1. 日 時 令和5年8月5日(土) 午前の部 9：30～12：30
午後の部 13：00～16：00

2. 対 象 午前の部：静岡県東部地域在住の方
午後の部：静岡県中部、西部地域及び静岡県外在住の方

3. 場 所 沼津工業高等専門学校

4. 実施内容

- | | | |
|------------------|---------------|------------|
| (1) 進学説明会 | (2) 各学科・専攻科紹介 | (3) 学内施設紹介 |
| (4) 学生会企画及びクラブ紹介 | (5) 学生寮見学 | (6) その他 |

5. 参加者へのお願い

当日、体調のすぐれない方は参加をお控えください。



6. 一日体験入学ホームページアドレス

https://www.numazu-ct.ac.jp/admission/opencampus/trial_enrollment



令和5年度（8月～3月）行事予定表

令和5年

8月
 1日(火) 本科前期末試験
 (7月27日から8月2日まで)
 専攻科前期試験
 (7月27日から8月2日まで)
 4日(金) 専攻科夏季休業 (9月21日まで)
 5日(土) 一日体験入学
 7日(月) 本科夏季休業 (9月19日まで)

9月
 12日(火) 1～4年保護者懇談会 (14日まで)
 22日(金) 専攻科1年学外実習事前研修会
 27日(火) 4年キャリア研修 (29日まで)
 3年CBT
 28日(水) 2年CBT
 29日(金) 2年特別研修

10月
 2日(月) 後期授業開始
 11日(火) 体育祭・学生総会
 14日(土) 全国高専プログラミングコンテスト
 (15日まで)
 体験入寮
 15日(日) 中学生のための体験授業
 25日(火) 文化講演会
 29日(金) 東海北陸地区ロボコン大会

11月
 6日(月) 学科説明会 (24日まで)
 10日(金) 高専祭準備日
 11日(土) 高専祭
 12日(日) 高専祭
 18日(土) 編入学試験
 19日(日) 東海地区高専体育大会
 26日(日) 高専ロボコン全国大会
 28日(火) 本科後期中間試験 (30日まで)
 30日(木) テクノフォーラム

12月
 1日(金) 専攻科1年知財教育・学外実習中間
 報告会
 8日(金) 3年インターンシップガイダンス
 9日(土) 3年インターンシップ企業説明会
 15日(金) 専攻科入学説明会
 23日(土) 冬季休業 (1月5日まで)

令和6年

1月
 9日(火) 授業再開
 20日(土) 推薦入試
 27日(土) 専攻科2年研究発表会

2月
 5日(月) 本科学年未試験・専攻科後期試験
 (9日まで)
 11日(日) 学力入試
 14日(火) 専攻科1年学外実習最終報告会
 15日(水) 専攻科学年未休業 (3月31日まで)
 21日(火) 5年卒業研究発表会
 22日(水) 終業式
 24日(土) 本科学年未休業 (3月31日まで)

3月
 20日(火) 卒業証書・修了証書授与式



「沼津高専だより」に関するお問い合わせ
 広報室出版・展示部会（事務担当：総務係）

Tel : 055-926-5712 E-Mail : soumu@numazu-ct.ac.jp



沼津高専サテライトオフィス（N-com）

2022年11月より、学生も自習等で利用できるようになりました。
利用にあたっては申請が必要になります。
詳しい利用方法については右記のQRコードよりご確認ください。



学生利用案内
(沼津高専ウェブサイト内掲載)

沼津高専公式 SNS アカウントを開設しました

TwitterとInstagramに沼津高専公式アカウントを開設しました。
各種情報を発信していきますので
ご覧ください。



Twitterはこちらから



Instagramはこちらから